

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	せんだんの杜ものうなかつやま 認知症対応型共同生活介護事業所
所在地 (県・市町村名)	宮城県石巻市桃生町給人町字東町96番地2
記入者名 (管理者)	佐藤 優子
記入日	平成 19年 6月 1日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>入居者それぞれが、役割を持って家庭的な環境の下で生活できるよう、地域・家族との結びつきを重視した運営を行うという方針を持ち行っている。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>毎日のミーティングなどで、利用者の日常生活をもとに職員に伝え話し合い、取り組んでいる。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>会報「杜の小道」を小学校区全世帯に配布している。運営委員会会議で話し合う機会を持ち理解していただけるよう努めている。</p>	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>来ていただけるきっかけとして、行事の招待や地域資源などを活用した催事などを計画し実施している。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地区フェスティバルに全職員参加。地区の清掃活動の参加。防災訓練の参加。「子供110番の家」などの防犯の協力をしている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	心肺蘇生法講習会を、職員と住民の方々と一緒に受講する企画を立て実施した。 事業所のスペースを地域に開放し、活用してもらっている。 * 定期使用ではダンベル体操のサークル活動など		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員に自己評価を実施し、それを基に外部評価にあたっている。 評価で出た改善点も報告し、取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価の結果を報告している。地域と事業所の情報交換や共有の場になっている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	石巻市から学童保育を委託され実施している。この事からも市町村担当者と連絡を取り合うことが多い。地域資源を活用して、事業を実施する場合など、紹介や協力をもらっている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	バックアップ施設での勉強会や、外部の研修会等に参加し、学ぶ機会を持つよう努めている。	○	事業や制度についての理解を深め、活用し支援できるよう、情報の共有や学び方を工夫したい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	バックアップ施設の虐待防止委員会の月1回の出席や、会議録の全職員回覧で情報の共有している。、研修会等で学ぶ機会を持ち、意識付けや知識の向上に努めている。	○	高齢者虐待防止法について、改めて勉強する機会を持ち職員の知識や理解、日常のケアの中での気づきが出来るようにしたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約書、重要事項説明書をもとに説明し、理解して頂いた上で入居や解約をしている。申込み前でも、見学や、説明の希望があれば対応している。	契約書、重要事項説明書を基に説明し、理解して頂いた上で入居や解約をしている。 申込み前でも、見学の受け入れや、話を聞きたいという希望があれば対応している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は、利用者の話を聞き様子の変化に気をつけ、気持ちをくみ取るよう心がけている。面会時、家族とゆっくり過ごせる場所を整備して入居者、家族、職員間のコミュニケーションを大切にしている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	健康診断の結果や、受診の相談や結果について連絡を取り合う。 手紙を出したり、電話やメール等で連絡をとっている。 小口現金出納帳の確認を定期的に行っている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	国保連等からのパンフレットの配布。 重要事項説明書に苦情窓口を記載し、説明している。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業計画立案段階から職員の意見を聞いている。年度初めや中間、終わりには話し合い評価するよう努めている。 事業計画をもとに年間計画予定表を作成し全職員に配布している。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者の状況に合わせている。急な場合でも対応できるよう調整に努めている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	人事異動に関しては、関連施設全体で実施するが、大幅な異動は行われていない。新規職員については、職員協力してフォローしている。異動した職員との関係も会いにいたり、来たりして継続していけるよう配慮している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>各職員ごとに、研修参加記録や勉強会等の参加状況、その職員の目標や考えを知る記録等をファイルしている。それを基に話をしたり中身を確認してもらい、振り返りの材料にしている。事業所内の勉強会の計画をたて実施している。</p>	<p>○</p> <p>段階に応じた育成を、バックアップ施設と共同し計画的に実施していきたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>計画作成担当者が管内のケアマネジャー情報交換会に出席している。</p>	<p>○</p> <p>管理者が交流する機会を持つよう努めたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>仕事以外の話でも聞き、話しやすい関係を持てるよう努めている。仕事以外でも、食事会やボーリングなどを通し交流の機会を設けている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>ケアの取り組みや考えなどを発表したり、研修報告を行い他の職員に自分の考えを伝える機会を持つよう努めている。管理者は、介護福祉士や介護支援専門員などの資格取得について話す機会を持つよう心がけている。また、職員個々の努力や実績が、本人の評価の向上につながるよう努めている。</p>	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前にこちらから伺ったり、遊びに来ていただいたりして、できるだけ顔を合わせる機会を持ち関係づくりに努めている。また事前調査を行い本人から話を聴く機会もある。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前に、事前調査を行い話を聴く機会がある。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族、他のサービス提供者やケアマネージャなど関係者と話し合う機会を設け、事前調査をもとに入所判定会議を行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族に説明し了解の上、短期入所サービスの利用や遊びにきていただいたりしている。又、こちらからも伺い各職員それぞれの関係作りに努めている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	地域のサークル活動(ダンベル体操)や畑作業を一緒に行ったり、裁縫を教えてもらったりしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	通院の相談や、節ごとに手紙で近況を伝えたりしている。家族を入れてのカンファレンスを行っている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	施設行事や地域行事のお知らせをして、楽しく過ごせる時間を一緒に共有できるよう努めている。また、そのような場で、本人と地域の方との関係性を家族に伝えたりしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人が遊びに来たり、通いなれた床屋に行ったり、以前利用していたサービスの利用者や職員と会うことを大切に考え支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員が関係性を把握し、日常生活の中で必要に応じて仲介し、良い関係を築いたり、保てるよう努めている。利用者同士支え合っている場面においては、コミュニケーションの状況により、職員が感謝の気持ちを代弁し伝えている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	継続的な関わりを必要とする利用者や家族に限らず、交流が続いている。メールのやり取り、利用者宅に会いに行ったり、季節の野菜をいただいたりしている。又、事業所の行事の案内を出し参加していただける機会を作っている。馴染みの関係にあった地域の方々と職員がお墓参りをしたりしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のアセスメント表を使用し把握に努めている。家族や関係者からも聞き取りし検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のアセスメント表を使用し把握に努めている。これまでサービスを提供してきた事業所職員やケアマネジャ、家族と話し合ったり、本人から聞き取りしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ケース記録やカンファレンス、毎日のミーティングでの情報をもとに把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者のケアプランをもとに、本人、家族、職員間で話し合い、介護計画を作成している。作成した介護計画について説明し同意を得ている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回モニタリング実施。担当職員を中心に、変化に応じて本人や家族、職員話し合い見直しを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	健康に関する記録と日常生活の様子を別に記録し、職員が情報を把握しやすいよう工夫している。情報共有し、話し合い活かすよう努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地域住民に活動の場として施設を利用していただいている。その活動の場に、利用者も参加している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	隣接の小学校児童と交流したり、中学生の体験実習の受け入れをしている。事業所の場を利用した地域住民の活動に参加したり、畑作業や敷地内の環境整備などを手伝っていただいている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	計画作成担当者が管内のケアマネージャ情報交換会に出席し、話し合いやネットワーク作りの機会を得よう努めている。又、同法人内の居宅介護支援専門員や地域包括支援センター職員と話し合う機会を持つよう努めている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営委員会に出席して頂き話してもらったりしている。地域包括支援センター職員が講師の研修に参加し、職員の知識向上を図っている。必要に応じて相談にのってもらっている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院に月1回の往診をしていただいている。日常生活の医療に関する相談も快く受けていただいている。協力医院以外のかかりつけ医との関係を築くために、家族に相談し了解を得て、受診に同行させていただいたりしている。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の専門医ではないが、状態に応じて協力医に相談し専門医への紹介をいただいている。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	バックアップ施設の看護職員に相談したり、休診時の医療行為が必要な場合の対応をお願いすることができる。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	家族、病院関係者、面会した職員が書き込みできるノートを準備し、それぞれの連絡や、利用者の様子を記入できるようにして情報交換に努めた。また、医師と家族の退院に向けての話し合いの席に、家族の了解の上、同席させていただいている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族に、主治医から状況を聞いてもらったり、それを踏まえて家族と話し合ったり、状況の変化に応じて電話やメールでやり取りを行い、生活の経過を共有し話し合うようにしている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	家族には、その都度利用者の状態を踏まえ説明や相談している。本人の意向を大切に、家族や医師に随時報告、連絡、相談し、情報を共有しながら一緒に支援していけるよう努めている。	○	訪問看護や関係機関との連携や協力を得られるようにしたい。
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族や関係者と情報交換を行っている。退居後も訪問したり、面会し状況の把握をしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報取扱に関する同意書をいただいている。プライバシーや羞恥心に配慮したケアに努めている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日々のコミュニケーションを大切に、信頼関係を築いていくよう努めている。職員の自己満足の支援ではなく、利用者が決定し満足する生活となるよう働きかけしたり、職員間で話し合い支援するよう努めている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	リスクに配慮しながら、楽しみや生活習慣を大切に、役割とし行っていることなどに対し、安全に継続していけるよう支援している。 (畑の水掛、調理の手伝いや後片付けなど)	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人や家族と話し合いながら、服をそろえたり一緒に買い物に行き自分で選んでもらったりしている。なじみの床屋に行ったりしている。また、この地域で新たな関係性が築いていけるよう、職員含めて努力している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を一緒に考えたり、食材の買出しや調理、片付けを行っている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのお酒、飲み物、おやつ、たばこ等を一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	記念日に本人のリクエストメニューにしたり、自分のおやつを自分で購入することができるよう支援している。糖尿病のある方には、制限するだけでなく糖分の少ない物を用意し、皆と食べることが出来るよう配慮したりしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表をもとに、排泄状況や習慣を把握し、皆で話し合い支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	体調や気分に合わせて入浴できるよう配慮している。職員と一対一でゆっくり入浴できるよう支援している。	○	入浴できる時間帯の幅を広く持てるようにしていきたい。(夜間の入浴など)
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	起床、就寝、排泄介助など一人ひとりの動きにあわせ介助を行っている。生活習慣、身体機能に合わせた寝具の使用。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	植木や畑の手入れ、家事仕事、家族と一緒に食事をしたり、地域活動への参加、友人が遊びに来たりなど。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族の希望により、自分で金銭管理し外出時使ったりしている方もいる。金銭管理はさせていただき、外出の際は自分で支払っていただくようサポートしたりしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気分転換にドライブや散歩をしたり、一緒に買い物に行ったりしている。また、本人が目的を持ち出かけることができるよう配慮している。 (書店に行って自分の欲しい本を選んで購入することなど)		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	機会は少ないが遠方に出かけたり、自宅や子供の家に行き過ごすことがある。	○	今後も、できるだけ外出の機会を増やしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	プライバシーが守れるよう、場所を移動し電話できるよう子機を使用したり、自分で書くことが出来ない方については、本人と相談して職員が代わりに便りを出している。やり取りが継続できるよう支援している。また、地域活動を通して顔見知りになった住民の方から年賀状をいただく方もいる。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	パブリックスペースを気持ちよく過ごしていただけるように環境を整えている。職員もすすんでコミュニケーションをとるよう心がけ、自宅に招いているような雰囲気でも過ごしていただけるよう配慮している。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	バックアップ施設の委員会に、月1回出席し情報交換や勉強する機会を得ている。その記録、資料などを職員全員回覧している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は防犯上施錠しているが、日中は鍵をかけていない。天気がよければ、サッシ戸など網戸にして外気を取り入れている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員同士、毎日のミーティングで利用者の様子について情報交換を行い、職員同士声を掛け合い所在の確認や見守りを行っている。地域住民の方々と顔見知りになることで、気にかけてくださる方もいる。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一般家庭と同じような物の置き方だが、薬剤、薬品、洗剤などに関しては危険がないよう管理保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	バックアップ施設のリスクマネジメント委員会に、月1回出席している。内部研修に参加し理解を深めている。ヒヤリハット記録や介護事故記録をつけ、話し合いを持ち改善、防止に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	健康状態を把握して、必要に応じて協力医院に相談して対応を考える事ができる。連絡の体制も整えている。	○	経験の浅い職員のフォローや勉強が必要と考えている。定期的な話し合いや勉強会を行っていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	計画をつくり、定期的に訓練するようにしている。運営委員会でも取り上げ話し合う機会を作っている。職員と地域住民と一緒に心肺蘇生法や搬送方法を、消防署署員を講師に学ぶ機会を設けたりしている。災害時の備えについても整えている。	○	避難訓練や消火訓練を地域住民と一緒にできる機会をつくる。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	体調や生活の様子を伝えると共に、考えられるリスクについても話し理解を得られるよう心がけている。職員についても、その人らしい生活が送れるよう話し合い対応するよう努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	誰でも状況や経過が把握できるよう健康管理表に記入し、適切に報告、相談、受診ができるようにしている。医師とのやり取りについても全職員情報を共有し、医師や家族の対応がスムーズにできるように努めている。記録は全員回覧している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬や処方箋は個別に管理している。薬については医師に相談し確認や指示を受け、職員の判断で対応しないよう周知している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	薬だけに頼らず、日常生活の中で自然な排泄になるよう心がけている。食事の工夫や水分量に注意したり、運動などの働きかけなど行っている。必要に応じて、水分摂取量のデーターをとったり、排泄チェック表をもとに、その都度対応を検討したりしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	朝夕口腔ケアを行っている。できるだけ自分で行ってもらい、不足する分についてはサポートしている。歯科に月1回受診している利用者もおり、その際職員がケア方法を教えてもらったりしている。協力歯科医院が講師の口腔ケア研修に参加し、知識やケア方法を学んだりしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各職員が支援状況を把握できる様に、摂取量などの測定表を必要に応じて記入している。食事についても、個々の状態に合わせ量・バランス・調理方法を工夫している。時々、写真に撮り反省や今後の食事を考える資料にしたりしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	バックアップ施設の感染予防委員会に月1回出席している。内部勉強会や同法人内研修に参加し知識を深めたりしている。関係機関からの文書などを全職員回覧し、情報を得るようにしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	内部勉強会(栄養士指導)を実施し、各職員知識を深め衛生管理を行えるようにしている。食材もその都度購入し、新鮮な食材を使用するようにしている。全職員腸内細菌検査を月1回実施している。毎食の原材料と調理済みの保存を行っている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	遊具があり、親子が遊びに来る。玄関には、植物を置いたり、頂いた人形を飾ったりしている。同敷地内には畑があり季節の野菜を育てている。いろいろな木を植えており緑も多い。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所は対面式になっており、食事の支度の様子が分かる。居間から外の景色も見え、天気やよい時などはテラスに出て過ごしたりしている。室内は花を飾ったり、季節に合わせた装飾をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビや本棚、ソファを置いたパブリックスペースがある。利用者もその日の気分に合わせて使用している。家族や友人が訪ねてきた際にも使用していただいている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを持ち込んでいただいている。ここで生活していく中で雰囲気が作られていっている。	○	利用者によっては部屋が殺風景な方もいる。日常生活の中で築かれていくさまざまな関係性をいかして、利用者と一緒に部屋の雰囲気を作れるよう工夫したい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	湿度や温度の目安の数値を掲示し、各職員が意識できるようにしている。掃除や喚起を行い空気がよどまないよう注意している。部屋のトイレ等についても、こまめに掃除している。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物全体はバリアフリーである。廊下の手すりは棒状のものではなく、板状のものを設置している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者の生活歴や入居前までの生活の様子をもとに、利用者本人の価値観で様々な場面を考え、支援することを心がけている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花を育てたり、畑作りをしている。時々子供たちと一緒に活動したりしている。外にテーブルや椅子を置いて散歩の時くつろいだり、外で食事をしたりしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

グループホームの他に同敷地内で、居宅介護支援事業、デイサービス、ショートステイ、石巻市からの委託事業で学童保育などの事業を実施しています。隣にある小学校とは、フェンス等もなく子供たちが遊んだり、活動している様子を見ることができます。小規模ですが、多機能な介護サービスを提供し、地域の方々に必要な時に必要な介護サービスを利用していただいています。住み慣れた所で最後まで暮らせるよう支援していきたいと考えています。施設のスペースを地域の活動の場として提供し、そのような場に、主体的に利用者さんが参加することができます。地域の一員として地域とのつながりを大事にして、それを活かして利用者さんの生活が豊かになるよう取り組んでいます。